

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 三重中学校・三重高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒515-8533 三重県松阪市久保町1232番地
E-mail infomieh@mie-mie-h.ed.jp
Website http://www.mie-mie-h.ed.jp/
生徒数 男子 1,142名 女子 935名 合計 2,077名
生徒の年齢 12歳～18歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を学校の建学の精神として、ESDを社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すと捉え、ESDの実践を通して知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力の育成を目標とした。

具体的には、干潟、人工林での活動を柱に、①干潟を知ることに関わる学習、②干潟を調べることに関わる活動、③干潟のことを周りに伝えることに関わる活動、④吉野町の地方創生の取り組みに関わる学習を行った。

① 干潟を知ることに関わる学習

中学1年全員137名が6月8日(木)1日間を使って海の調査実習を行った。元のボランティア団体「松阪・松名瀬再発見プロジェクト」の協力のもと、地元に残る日本有数の干潟を持つ松名瀬海岸で海の生物やそこで働く方々の話を聞く機会をもった。講師は三重大学生物資源学部海洋生態学研究室木村妙子准教授、三重県農林水産部みどり共生推進課樋口大輔様・山下明久様、松阪漁業協同組合大橋純郎組合長、「ざっこClub」代表佐藤達也先生をお願いし、多様な考え方を学んだ。

② 干潟を調べることに係わる活動

科学技術部（部員 42 名）が、三重大学木村准教授と共に、地元の松名瀬干潟で環境省のモニタリングサイト 1000 調査を行い、また、木村先生の指導を受け、7 年前より松名瀬海岸においての一環として、継続的な干潟の生物調査、アサリの生育調査などを行なっている。活動で得たデータをまとめ、9 月の学園祭での生徒全員の前の発表や日本地理学会全国大会でのポスター発表、11 月に全国アマモサミットで発表した。また、12 月の冬のエコフェア（県の環境学習情報センター主催）、2 月の県の教育委員会主催の発表会でも発表した。

③ 干潟のことを周りに伝えることに係わる活動

生徒主体で、みえこどもの城（3 年前より）などの松名瀬観察会および海岸漂着物の清掃活動を行っている。また、12 月 10 日（日）みえ環境フェアでは、研究発表と干潟の再現をし、生き物に触れてもらうコーナーを作成、貝のキーホルダーづくりのブースを運営した。また、6 月 17 日（土）に、松名瀬干潟の地元の松阪市立西黒部小学校の通常の土曜日授業を行った。そのほかに、3 年前より、三重大学環境 ISO 学生委員会に協力し、松名瀬干潟の海岸清掃を行うアクア・ソーシャル・フェス in 三重を主催者として行った。生徒会・美化委員長および科学技術部が企画・運営に関わり、係以外の生徒が多数参加のもと実施した。5 月 20 日（土）には 350 人程、10 月 28 日（土）には 170 人程の参加者を集め、海岸清掃活動および環境学習講座を行った。

④ 吉野町の地方創生の取り組みに係わる学習

地方創生の先進地である奈良県吉野町への遠足に高校 3 年生全体が参加した。実行委員の生徒が先方に協力をしてもらえるかの電話による相談から始まり、下調べ、下見を重ね、事前に地元の本居宣長記念館の吉田館長と、吉野の方々をお招きしての生徒全員で学ぶパネルディスカッションを計画し、実施した。その後、細分化したテーマを設定し、生徒全員に B4 サイズ 1 枚のレポートの作成を求め、添削も行い、250 ページを超える本を作成した（地方創生への思い込み）。遠足当日に、吉野林業（育林～製材）を取り巻く環境、地元の子どもたちと木材の関わり、紙すき文化、地元の食材、後醍醐天皇と吉野、本居宣長と吉野の観光、桜以外で町の活性化、人口減少による空き家の利用など多岐に渡り、ESD の観点そのものを学んだ。



① 碎波帯ネットを用いた学習



② 月に一回のコドラート調査



③ アクアソーシャルフェス



④ 奈良の食材で作ったお弁当

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

干潟ベントスフィールド図鑑、干潟ベントスしたじき 4枚セット (巻貝・二枚貝・カニ・多毛類その他の動物)、三重学、吉野・大峯：“憧れ”と“安らぎ”の聖地ブランド
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中学 1 年

事前学習（社会 3 時限、理科 1 時限、道徳 1 時限）（社会は仕事調べ、理科は干潟の性質および安全、道徳は集団訓練及び話の聞き方）。実習 1 日間（6 月 8 日（木）、総合学習 6 時限）を使って海の調査実習を行った。事後学習として（社会 2 時限、理科 1 時限）知識および定着の確認。一部の生徒が選択教材として、ここで学んだ内容をまとめ、9 月の学園祭で発表を行った。生徒同士のグループワークを多様に組んで行った。

高校 3 年

事前学習（HR 5 時限でパネルディスカッションも行った）及び課題として調べ学習を行った（選んだテーマと地方創生への考え方を書かせる）。遠足 1 日間（4 月 25 日（火））。実行委員会を希望者で作り、教員は確認役に徹した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

実習の際や企画を作る際に多くの行員が参加できるように、管理職と話し合い、教員への呼びかけを多く行ってもらったり（このような企画には是非参加してほしいと、管理職に認めてもらい、推進してもらい）、引率人数を増やしてもらい、多くの教員が次年度以降もできるようにしている。お茶を飲む会を多く開いたり、教員同士の席の前には本箱などを置かずに、教員同士の話し合いを密にするように心がけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

企画によっては 5 件法を使って、生徒や保護者対象に企画の評価を行っている。また、企画が終わるころに教員による話し合い（反省会）を行っている。また、企画に参加をした生徒に、インタビュー形式で感想を聞くようにしている。生徒・保護者の評価は大変高く、9 割以上の方々より高評価を受け、より推進してほしいという結果を得ている。問題点としては、継続して行っている企画は、特に中心になる教員が変わった際に、形骸化が起ることや、継続した予算の確保が問題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の WEB サイトに掲載、いろいろな学会(日本理科教育学会・日本地理学会・日本森林学会)や研究会(全国アマモサミット・冬のエコフェア(県の環境学習情報センター主催)・みえ自然科学フォーラム(県の教育委員会主催の発表会)で発表。また、学校代表で、オープンスクールで生徒が研究発表や体験講座を行ったり、西黒部小学校の土曜授業で生徒が講師を行った。生徒自身、意識が高くなり、自分の活動を省みるようになってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

干潟の学習では、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室木村妙子准教授、三重県農林水産部みどり共生推進課樋口大輔様・山下明久様、松阪漁業協同組合大橋純郎組合長、「ざっこ Club」代表佐藤達也先生、小藪自治会長、小川西黒部地区公民館長、西黒部小学校、三重大学環境 ISO 学生委員会、一般社団法人西日本閉鎖性海域連携推進機構。また、アクア松阪という水に関わる協議会にも参加。吉野遠足では、吉野スタイル・吉野中央林業・如意輪寺等と関わった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

三重大学の ESD コンソーシアムの関係で三重大学環境 ISO 学生委員会に協力し、松名瀬干潟の海岸清掃を行うアクア・ソーシャル・フェス in 三重を主催者として実施。EPO 中部主催の揖斐川高校生ツアーに生徒会や科学技術部の生徒が参加をし、揖斐川流域未来フォーラムに参加をし、いろいろな学校と交流し、より深い学びの場を得た。三重大学の ESD コンソーシアムの関係で、2017 年度の成果報告会に参加し、生徒が事例発表を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒：日ごろ多く実施されている座学に比べ、生徒が主体的に参加をしイキキしている。生徒の成績も伸びている。ユネスコスクールの活動に価値を感じ、入学する生徒が出てきている。教員：生徒の変化を見て、より推進すべきと考える教員が増えている。プライベートで校外にいる際に、町の人から「環境教育でお世話になっています」とか声をかけられることがあった。次期学習指導要領に向けてのアイデアになっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・ 中学 1 年生 140 名（注：学園祭に向けては 30 名程実施）：5 月事前指導（4 時限）、6 月干潟の実習 1 日間（6 時限）および事後学習（2 時間）、7 月および 9 月学園祭に向けてのまとめ・発表（12 時限）。4 月より教員集団でカリキュラムの検討会を行う。

・ 中学 3 年生 140 名（注：大学での実践は 30 名程）：5 月に愛媛大学沿岸環境科学研究センターでの学習。

・ 高校 1 年生 140 名：森林に関する町の取り組みを自ら学び、自分たちが何ができるかを話し合い・発表する遠足を実施。

・ 科学部 45 名：環境省モニタリングサイト 1000 調査年 1 回、毎月 1 回大潮の日に 1 日調査、夏休み等の長期休暇に集中調査、干潟の観察会・環境学習会を数回、環境フェアや学会や校内の文化祭等の発表を数回。生徒集団で小学校の授業の企画に対する検討会議を行う。長期休暇に、他の地域の海洋教育の見学。